

新学期の始まり

滝田 和己

ここ太原市にもほのかな春の香りが漂い始めた3月、日本の大学と比べ一足先に新学期が始まりました。一番寒さが厳しかった頃と比べてだいぶ暖かくなりましたが、まだまだ油断はできません。分厚いコートは必要なくなりましたが、時々寒さの厳しい日もありました。一度だけ雪が降った日もありましたし、毎日スマートフォンでの温度の確認は欠かせません。授業も始まり、久しぶりに友人達の顔を見ることができ、活気溢れた良い雰囲気新学期が迎えられたかなと思います。後期は前期と比べ期間が少し短く、HSKの試験もあるため、早くもラストスパートのような焦りを個人的に感じています。新学期開始直後の出来事を述べたいと思います。

まずは私事ですが、この度お引越しをしました。今までは山西大学商務学院の寮を借りていたのですが、今学期からは山西大学の寮を借りて過ごしています。なぜ引越しをしたのかというと、前期は商務学院から山西大学まで約1時間かけて通って授業に出ていたからです。往復で約2時間かかりますし毎日バス代を払うので、時間とお金が惜しいと感じていたところ、先生が山西大学の空き部屋を用意してくださいました。引越し後は時間の有効活用がしっかりとでき、自分の勉強が前期よりも多くできています。商務学院にも多くの友人がいるので引越しは正直最後まで悩みましたが、結果的により充実した生活ができていると感じています。

もう一つ私事ですが、中国に半年以上滞在して身体にある変化が生じました。案の定太りました。中国の学食で食べるご飯は安く、且つ量が多めなのでつい食べ過ぎてしまいます。前期はさほど体重の変化も無かったのですが、冬休みや春節には毎日多くの食べ物を食べ、尚且つ運動もあまりしていなかったため、結果的に中国にくる前と比べ5キロ以上も増えてしまいました。学食はもちろん、火鍋や焼肉など外食がとても美味しく毎回多く食べてしまいます。また、私自身食べ物を残すことを嫌うので、つい日本にいたときの感覚できれいに食べ物を食べてしまいます。実は中国では古くから食べ物を残す習慣があります。もしも家庭に客を招待して料理を振る舞い、その客が食べ物を残さずきれいに食べた場合、料理提供者側の視点からすれば「あれ、料理が足りなかったのかな？量に満足してないかな？」と感じてしまいます。そのため中国では一度に振る舞われる多くの料理に対し、客は少しだけでも食べ物を残すことで「満足した」という意思の表示をします。今では昔ほどこの風習に則っていないので学食や外食等では食べる量だけ頼めば良いのですが、特に家庭や結婚式では少なからずこの習慣が今でも残っています。今後中国にくる方で体型を気にしている方がいらっしゃれば、食事の量に気をつけて生活すると良いと思います。

また食べ物に関してもう一つ述べたいことがあります。それは「辛さ」です。中国人は基本的に辛いものが好きで、中には「辛くないと美味しくない」と言う人までいるほどです。そこで注意して欲しいのは、辛さの度合いが日本と違うことです。私は日本にいたときに辛い食べ物も好んで食べていましたが、中国での辛口料理は想像を超えるほどの辛さでした。もし中国で初めて辛い食べ物に挑戦する場合、ま

ずは「微辣（ウェイラー、ピリ辛味）」から試してみると良いと思います。私にとっては、この微辣は日本でいう超辛口のように感じましたが。



山西大学商務学院の学食の火鍋。可愛い豚の形をした辛味の調味料が溶けた後、スープが真っ赤に染まり激辛味に。

新学期早々、サークルの活動も始まりました。私は二つの語学サークル（日语協会、対外汉语交流社団）で日本語と文化の授業をしています。埼玉県のことを中国の学生に教える良い機会だと思い、2回目の授業では埼玉県についての授業をしました。内容は埼玉県の良い部分、観光名所、食べ物、アニメなどです。授業に出席した多くの学生たちは日本のアニメを好んで観るらしく、埼玉県を舞台としたアニメもほとんどの学生が知っていました。この授業の準備をする際に、留学前に埼玉県庁様が私たちに埼玉県についてレクチャーしてくださったときの資料を用いてパワーポイントを作成しました。このサークル活動以外でも東京オリンピックに関連付けて埼玉県をアピールしていきたいと思っています。



サークルの様子。この日は埼玉県についての内容でした。

毎年3月に立教大学から生徒が何人か短期留学のプログラムで山西大学へ、中国語の学習や文化に触れるため来ています。今年も立教大学生と一緒に授業に出るな

ど、交流する機会がありました。立教大学は埼玉県にもキャンパスがあり、中にはこの埼玉県の山西大学派遣事業に興味を持ち始めた生徒もいました。こうして新たな日本人と触れ合うことで中国語学習に対する初心、中国文化への探究心の再確認ができました。短い時間ではありましたが、こうした様々な人との繋がりが人生を豊かにするのだと、立教大学の皆様には感謝しています。

新学期の始まりで折り返し地点にいるような感覚ですが、残り約4ヶ月しかないと考えらるともう時間がありません。語学の学習はもちろん、学校の活動や旅行などやるべきことを計画的に実行し、悔いのない留学生活にするため今から意識する必要があります。緩みかけている生活を引き締め直して、7月までの残りの時間を過ごしていきたいと思います。



アメリカのノースカロライナ大学から山西大学へ視察に来たときに行われた芸術発表会の様子。普段午後に書道の授業を受けていたので、留学生として参加し自分の作品を発表しました。